

妙安寺だより 法話特集号

仏説 桃太郎(4)

おじいさん、おばあさん、桃太郎、金太郎、浦島太郎、かぐや姫、シンデレラ、赤頭巾・・・・・・・・と

登場人物の年齢は、古今東西いずれも話の中では不明です。不思議だと思いませんか。まあ話には年齢は関係ないかも知れませんがね。そこで桃太郎の絵本を見ながらそれを考えてみることにしました。

まず、昔は「人生50年」いわれたことから、おじいさん、おばあさんを50歳として考えてみると、桃太郎が成長して、突然に「鬼が島に行って鬼退治してきます」と出かける場面を見ると、桃太郎は前髪姿で豪華な衣装をしています。ということは年齢は、元服（15歳・現在の成人式にあたる）前であることが分かり、おじいさん、おばあさんは15、6歳若くなったということです。

また、豪華な衣装については、若返ったおじいさんとおばあさんは、一人息子のために働き、揃えたのではないのでしょうか。

ここでまたまた疑問！ 桃太郎は、いかにして鬼退治をするのか？ 金太郎はクマを相手に力をつけました。

桃太郎は、山を駆け巡ったり、川で泳いだりして体は鍛えていると思いますが。

また鬼が島はどこにあるのか？ それは丑寅（ウシトラ）の方角です。すなわち東北の方角で一般的には鬼門といわれています。当時の政治の中心地は、京都・奈良地方で、ここから東北の方角にある島は、佐渡島しかありません。鬼の姿はというと、丑寅に住んでいるところから、牛のような角を生やし、虎柄のパンツを身に着けています。

桃太郎は、早速おばあさんに「キビダンゴ」を作ってもらい、それをもって出かけたのです。

*「五穀」は米・麦・粟・キビ・豆 一般的には穀物をいい、「鬼」は異人(外国人)ではないかともいわれています。

途中で、サル・トリ・イヌを家来として従えて鬼が島へと進みます。

なぜ、サル・トリ・イヌなのか？ これは東北の方角の逆を見ると判ります。

東北の逆の方角、すなわち南西の方角で裏鬼門といえます。

この方角(南西)には、未(ヒツジ)・申(サル)・酉(トリ)があり、ここから未(ヒツジ)が、あまりにも弱そうなので、代りに戌(イヌ)にしたという説があります。

*サルは智慧、トリは勇氣、イヌは恩を表しています。

今回は、鬼退治の巻とこの話を仏教的に解釈することにしましょう。

